

子育ての悩みに寄り添う絵本

子育てと絵本 vol.11

いつの間にか子どもたちの心の中にある“アンパンマン”。誰もが幼少時に一度は通るというアンパンマン道。最初の絵本「あんぱんまん」は、自分の顔を食べさせるなど残酷だと、発売当初はおとなたちから厳しい声もあったようです。ところが予想に反して次第に子どもたちの間で人気を博しました。正義の味方アンパンマンでも誰かに助けられています。決して最強のヒーローではないことも長く親しまれているひとつの理由なのでしょう。

PHP研究所から今年発行されたやなせたかしさんの著書「ボクと、正義と、アンパンマン」は、やなせさんのおいたちからアンパンマンへの思いが描かれています。やなせさんのやさしさと偉大さに文中で何度も触れることができ、心が揺さぶられます。

『めつきらもつきら どおん どん』の作者長谷川摂子さんは、「キャラクターとしてのアンパンマンを見ている

子育てとSDGs絵本 その4

と、子どもは、今ある自分をそのままに肯定してくれている安心感がわくのかもしれません。あのイメージが自分の存在を和らげてくれるかぎり、子どもはアンパンマンを愛しつづけるでしょう」と語っています。

絵本「あんぱんまん」。作者は、従軍経験で身をもって感じた“飢え”から、「困っている人、飢えている人に食べ物差し出す行為は、立場が変わっても国が違っても『正しいこと』に変わりなく、絶対的な正義なのです」とさまざまな場で発信されています。

「やさしいライオン」。種が異なる動物の親子愛や絆。辛い展開にはなるけれど温かさが心に残るロングセラー絵本です。人と動物たちとの共生や、自然の豊かさから住み続けられるまちづくり、パートナーシップについて考えさせられます。

飢餓をなくし、人や国の不平等をなくすこと、そして異

なる立場の人がお互いに助け合うことの大切さ、そのようなやなせたかしさんの思いを、持続可能な社会実現へのメッセージとして受け継いでいきたいものです。

やなせたかしさんの絵本



あんぱんまん
作・絵 やなせ たかし
フレーベル館



やさしいライオン
作・絵 やなせ たかし
フレーベル館

子育てひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 恵子

1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター。Think the Earth SDGs for School 認定エデュケーター